附

錄

一、昭和十年陸軍特別大演習並地方行幸關係延岡市日誌

二、記念講演「非常時下の同胞に望む」

昭和十年陸軍特別大演習並地方行幸關係延岡市日誌

五月十一日 特別大演習並地方行幸下準備ノ爲メ宮内省事務官酒卷芳雄仝子爵本多猶一郎ノ兩氏來延城山公園ヲ視察セラル

大演習ヲ前ニ控ヘチブス撲滅ノ爲メ中川原東區七百名ニ對シ之ガ豫防注射ヲナセリ

本日午前十一時宮内省本多行幸主務官ヨリ左記ノ通リ發表アリタル旨本縣知事官房主事ヨリ午後零時五分仲田市長宛電話アリ

記

「聖上陛下ニハ本秋陸軍特別大演習ヲ終ヘサセラレ宮崎延岡ニ地方行幸相成リ宮崎女子師範學校ヲ行在所ニ充テサセラルル樣御内定アラセラル、旨御發表アリ」

右電話ノ趣ヲ滯京中ノ仲田市長宛助役名ヲ以テ打電シタルニ對シ同市長ヨリ同日午後七時四十七分左記入電ニ接ス

電文

貴電拜誦寔ニ感激ニ不堪全吏員益々緊張協力準備ニ着ケ　仲田

六月七日 伊東助役ハ市會々議室ニ全吏員ヲ參集セシメ空前ノ光榮ニ接スル本市トシテ之カ事務上萬

遺漏ナキ旨訓示スル處アリタリ

光榮ノ御料蔬菜地ニ指定サレタル市内中出北一二二四番地伊東和男氏方ニ於テ栽培地修祓式擧行

六月八日　當市内ニ於ケル行幸個所下檢分ノ爲メ宮内省本多行幸主務官一行ハ三島本縣知事等ノ案内ニテ宮崎ヨリ來延セラレ旭ベンベルク絹絲株式會社延岡工場、城山公園、縣立延岡商業學校視察後歸東セラル、右一行中黑田侍從外二名ハ神都高千穗ヘ出發

六月十日　軍事參議官海軍大將野村吉三郎閣下ニハ旭ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場、城山公園視察後大分縣佐伯ヘ向ハル

六月十二日　特命檢閲使陸軍大將眞崎甚三郎閣下來延泊

六月十九日　仲田市長ハ全吏員ヲ市會々議室ニ集メ今秋空前ノ盛事タル地方行幸御内定ニ付萬遺漏ナキ旨訓示スル處アリタリ

六月廿二日　全吏員ニ對シ第一回チブス豫防注射實施

六月廿九日　全吏員ニ對シ第二回チブス豫防注射實施

七月三日　延岡尋常小學校ノ講堂ニ於テ昨年群馬縣下ヲ中心ニ執リ行ハセラレタル陸軍特別大演習並地方行幸謹寫映畫アリ　縣主催

七月六日　仲田市長ハ全吏員及傭人全員ヲ會議室ニ集メ陸軍特別大演習並地方行幸事務委員任命ヲ終ヘタル後訓示ヲナシ其後一同ハ縣社今山神社ニ於テ執行ノ御安泰祈願祭ニ參拜セリ

七月十二日　陸軍特別大演習並地方行幸ニ關スル昭和十年度延岡市歳入歳出追加豫算其他附屬議案ニ付市會アリタルガ滿場一致起立裡ニ原案可決後縣社今山八幡神社ヘ　天皇陛下御安泰祈願祭並ニ報告祭ヘ參拜セリ

七月十九日　清水長崎控訴院長ハ大演習ニ因ム司法事務狀況視察ノ爲メ來延

七月廿六日　南尋常小學校ニテ市民第一回チブス豫防注射實施

八月一日　本秋御擧行ノ陸軍特別大演習御統監後　天皇陛下ニハ鹿兒島並宮崎兩縣下ヘ地方行幸遊ハサル、コトニ御内定、本日宮内大臣官房總務課長ヨリ通達アリ、當廳ヘハ本縣知事官房ヨリ仲田市長宛電話アリ

宮崎縣關係左ノ如シ

記

官幣大社宮崎神宮

皇宮屋

宮崎縣廳

宮崎地方裁判所

宮崎高等農林學校

宮崎縣師範學校

宮崎縣立宮崎中學校

宮崎縣立宮崎高等女學校
旭ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場
在鄕軍人、學校生徒、公設消防組其他御親閲場
延岡城山
仲田市長ハ會議室ニテ右ノ次第ヲ謹ミテ吏員ニ報告シ亞テ訓示アリ終リテ一同ハ縣社今山神社ヘ奉告並祈願ノ爲メ參拜

八月五日　本縣衛生課醫務係衛生技師稻倉恒壽氏ハ大演習ニ關スル衛生事務協議會　延岡警察署ニ於テ）出席ノ爲來延

八月八日　大演習並地方行幸ニ關スル本市主要道路舗裝工事入札土木委員會立會執行ノ結果左ノ通リ

記

イ、城山公園道路擴張其使　五、一五〇圓　福　原　銀　一
ロ、岡富、南町、船倉、須崎　一二、九九〇圓　三州アスフアルト會社
ハ、八間道路　七、六八〇圓　伊　井　組
ニ、旭ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場正門通　九、三〇〇圓　日本ピチエマルス株式會社

御料列車ノ模擬列車試運轉ハ本日宮崎、延岡兩驛間ニテ實施サル、仝上ノ爲島岡門司鐵道局長以下關係鐵道職員本縣眞崎總務部長外關係幹部試乘

八月九日　中村本縣經濟部長、立澤保安課長、藤田技師ノ一行ハ地方行幸ヲ前ニ本市土木工事進捗方ノ件ニ付來廳

八月十日　八月一日ヨリ引續キ市內淸涼飲料水檢査中ノ處本日ヲ以テ終了、仝上檢査ノ爲メ來延中ノ芝技手歸廳

八月十五日　國民精神作興講演ノ爲縣下各地巡回豫定ノ財部海軍大將來延泊

八月十七日　獻上硯謹作ノ光榮ヲ擔ヒタル市出身原口梅羊　本名實五郎氏）ハ本日來廳、原石採取其ノ他ノ件ニ關シ打合セヲ遂ケタリ

八月二十日　延岡圖書館ニ於テ縣主催海軍大將財部彪閣下ノ國民精神作興講演アリ
大演習並地方行幸奉告祈願祭ハ本日縣下一齊各神社ニ於テ執行、當廳幹部市內各神社ニ參拜セリ

八月廿二日　松竹ニユース主任ハ本縣公園課係員ト共ニ來延、城山公園下檢分引續キ旭ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場ニ赴キ謹寫ノ件ニ付打合セヲ了セリ
宮內事務官伊藤武雄　諸陵寮庶務課長兼考證課長　宮內屬南榮太郎兩氏ハ刀坂本縣屬ヲ伴ヒ來延地方行幸ニ關スル下檢分ヲ了セリ

八月廿四日　本日縣廳ニ於テ大演習並地方行幸ニ關シ縣側及宮崎、都城、延岡三市聯合打合會開議、仲田市長列席伊東助役ハ大演習事務其他日豐線ヘ急行列車實施促進方等ノ件ニ付上京

八月廿九日　地方行幸係長大平林務課長ハ瀨之口史蹟主事ト共ニ來延、城山ヨリ見タル名所古跡等調査

ス

九月一日　亀井神社ニ於テ献上硯鑿立式擧行
延岡市教育會ハ縣社今山神社ニ於テ　天皇陛下御安泰祈願祭執行ス

九月二日　昨一日鑿立式ヲ擧行シタル献上硯謹作ハ本日ヨリ市内誓敬寺ニテ着手ス

九月四日　大演習鹵簿謹寫場所檢分ノ爲縣新聞副係長地方改良主事織戸政雄氏外係員來延

九月六日　内務省警保局中野警務課長ハ本縣警察部齋藤警務課長ヲ從ヘテ來延、城山公園及旭ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場ヲ視察セラル

九月七日　再度行幸個所下檢分ノ爲メ宮内書記官子爵本多猶一郎氏及侍從黑田長敬氏外九名一行來延
三島本縣知事、仲田市長等案内ニテ延岡驛構内、城山公園、旭ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場ノ下檢分ヲ了シタル後宮崎市ヘ
献上書棚謹作者ニ内定シタル市内三ツ瀨渡部渡、燒鮎謹製者内定ノ市内南町篠崎勝ノ兩氏ニ對シ仲田市長ヨリ之ガ内命ノ辭ト謹作上ノ指示注意ヲナセリ
本秋ノ地方行幸ニ際シ畏クモ　天覽ニ供シ奉ル御豫定ノ延岡市教育會縣北名勝「行縢山」模型謹作品ハ、昨六日完成ヲ遂ケタルニ付謹作場所タル岡富尋常小學校ニ於テ奉告祭ヲ執行セリ
本日ノ吉日ヲ選ミ大演習並ニ地方行幸ニ對スル一般委員囑託辞令ヲ發ス、委員長森韶一氏外百七十餘名ナリ

九月九日　御料卵鷄及豚ノ納入ヲ了ス

九月十一日　地方行幸ニ因ム宮崎縣社會事業協會ノ事業タル縣下盲者開眼檢診、延岡市及郡北部分ハ中町松下眼科醫院ニテ實施本縣立病院三谷眼科部長來延檢診セラル

九月十三日　本秋ノ盛事ニ畏クモ　天覽ニ供シ奉ル献上品謹作者ノ清淨條祓式及祈願祭ハ本日擧行、先ツ天覽品謹作者一同ハ縣社今山神社ニ祈願祭執行後、縣献上品謹作者市内博勞町白瀨虎一及市内三ツ瀨渡部渡兩氏ノ謹作現場ニテ清淨修祓式擧行

九月十九日　本秋ノ御盛事ヲ控ヘ御道筋御豫定地所在家屋移轉問題ハ從來ノ行懸リヲ一切解消シ擧市一致歩調ヲ共ニスル事ニナリタリ
下關土木出張所宮島事務官來延、國道改修狀況其他ノ件ニツキ調査ヲ遂クル處アリタリ

九月廿一日　内務省下關土木出張所牧野雅樂之亟氏及宮島事務官一行來延

九月廿七日　地方行幸ノ件ニ關シ本縣石橋衛生課長來延

九月三十日　吉住第三十六旅團長並都城歩兵第二十三聯隊長豊島大佐大演習要務ニ來延泊

十月四日　本縣衛生課化學係衛生技手芝直氏ハ城山公園並賜饌用酒ヲ奉納スル市内日平商店及延岡酒造會社視察ノタメ來延

十月七日　市内南町區々長赤松新吉氏ハ目下改粧中ノ城山公園樹木購入諸費ノ中ヘト金二百圓也寄附ノ旨申出アリ

十月八日　本日ヨリ全吏員ハ地方行幸委員徽章佩用ス

岡富尋常小學校講堂ニ於テ地方行幸ニ關スル本市衛生警備隊編制式擧行

十月十一日　今秋盛事ノ光榮ニ浴スル市内關係傳献品、献上、天覽ノ品々ト名前ハ本日市當局ヨリ發表セリ

十月十二日　岡富尋常小學校講堂ニ於テ九月七日囑託セル市内奉迎委員第一回打合會アリ開會ニ先立チ天皇陛下御安泰祈願並修祓擧行シ終リテ辞令及委員章交付ヲ了シ仲田市長ノ挨拶ニ亞テ各係長ヨリ所屬事務概要發表ト質疑應答ヲ遂ク

十月十五日　市献上品謹作者篠崎勝ノ謹作場ニ於テ清淨修祓式擧行

十月十八日　延岡高等小學校ニ於テ市内各中等學校、青年學校、青年團ハ御親閲豫行演習ヲ實施セリ

澤宮中ノ島岡門鐵道局長一行來延、御召列車試運轉等ノ件ニテ延岡驛ヲ始メ城山公園、旭ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場其他關係個所ノ視察ヲ遂ケラル

延岡酒造株式會社及日平商店御倉修祓擧行

内務省警保局長唐澤俊樹氏一行來延、城山公園、旭ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場視察後一泊

本日正午東京ニテハ宮内省、地方ニテハ鹿兒島、宮崎兩縣廳ニ於テ行幸御日程正式ニ公表サル、延岡市關係ハ左記ノ通リ

記

十一月十五日午前八時五十分行在所御出門、同八時五十七分宮崎驛御發車、同十時三十四分延岡驛御着車延岡城山公園、旭ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場ニ行幸遊ハサレ午後零時七分延岡驛御發車、同四時五十一分鹿兒島驛御着車遊ハサル、御豫定、尙海路行幸ハ軍艦「比叡」ト御決定遊ハサル

十月十九日　伊勢谷熊本遞信局長ハ地方行幸ニ關スル通信事務視察等ノ爲メ來延、城山公園、旭ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場視察泊

十月二十日　岩佐憲兵司令官ハ地方行幸ニ依ル憲兵査察事務等視察ノ爲來延、城山公園、旭ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場、行幸御道筋、御料奉耕地中出北へ

十月廿二日　ネオンサインヲ織込ミタル延岡驛頭奉迎門ハ本日工事入札ノ結果左記落札

記

五三〇圓　市内船倉町　安藤一榮

本市天覽品納入ノ爲甲斐産業課長都城へ

十月廿三日　本縣土木課道路主事谷川高德氏ハ本市土木工事進捗狀況視察ノ爲來延

十月廿七日　地方行幸御當日ニ於ケル御道筋清掃撒水ノ件ニ關シ縣市土木關係者ノ協議アリ（於市參事會室）同上ノ爲縣ヨリハ中島、佐分利兩技師來延

十月廿八日　本日第一回鹵簿通御ト御道筋清掃演習實施サル、此日縣ヨリハ眞崎總務部長外關係技師來延

十月廿九日　在東京内藤子爵ハ杉本家令ヲ帶同本日歸省サル

本日市内日平商店、延岡酒造株式會社釀造部ヨリ奉納スル賜饌用酒造室及旭ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場奉建ノ御便殿消毒ノ爲本縣衛生課化學係技手芝直氏來延

十月卅一日　地方行幸ニ因ム本市衛生警備隊々長會ハ市會々議室ニテ打合協議ヲ遂クル處アリタリ

十一月一日　光榮ノ延岡市献上品原口實五郎謹作ノ「紅溪石硯」篠崎勝謹製ノ「燒鮎」渡部渡謹作「書棚」ノ三品ハ市會々議室ニテ市吏員及市會議員參列ノ上修祓式擧行、式後伊東助役ハ石三品ノ外傳献品左記ト共ニ出宮行在所ヘ納入セリ

傳　献　品

イ、銅製花瓶　内藤子爵家

ロ、縣献上品「竹籠」　白瀨虎一謹作

ハ、椎茸　有限責任宮崎縣椎茸販賣購買利用組合

ニ、醬油普通一升瓶詰　日平商店

第二回鹵簿通御ノ豫行演習ハ御當日其マヽニテ三島本縣知事外關係各部課長參加ノ上實施サレ併而奉拜豫行訓練モアリ

本年九月三十日付縣ヨリ囑託サレタル本市役所奉迎委員打合會ハ市會々議室ニテ開議セリ

歸省中ノ内藤子爵ハ野村家扶帶同來廳市内本小路區消防組ハ城山公園ノ清淨ヲ圖ルタメ同公園遊歩者取締ニ本日午後七時半ヨリ翌午前三時迄組員交替勤務ニ從事スル事ニ決定シタリ

十一月二日　御料車ニヨル本格的ノ鹵簿通御ノ豫行演習ハ本日實施サル、先ツ荷卸作業ヲ了シタル後御料車（鹵簿自動車　一輛、供奉車四輛、サイドカー五輛ハ行幸御當日ノマヽ、延岡驛ヨリ御道筋ニ沿ヒ行ハル、宮内省ヨリ主馬寮宮内技手大西清一郎氏及近衛師團ヨリハ植松操中佐外來延參加

十一月四日　御道筋タル板田橋ノ竣功式等ノ件ニテ本市土木委員會アリ

十一月五日　御召列車ノ公式運轉ハ本日島岡門鐵局長、吉川運輸課長、伊藤鹿兒島湯口大分兩運輸事務所長其他本省旅客課長、運輸課長等ノ乘車ニテ宮崎、延岡間ニ於テ行ハル、列車ハ南延岡驛機關庫ノ坂元機關手、金井、大久保兩助手ノ操作ニヨリ午前十時三十二分豫定ノ延岡驛停止線迄入構、午後一時五分都城ヘ向ケ發車セリ

十一月六日　宮崎縣廳ニテハ三島本縣知事以下廳員同廳屋上ニテ本日午前九時二十五分　天皇陛下御發輦ノ御時刻ヲ期シテ遙拜式擧行

延岡市ニテモ仲田市長以下幹部、並市會議員一同ハ今山、安賀多、亀井、恒富ノ四神社ニ參拜シ御旅路御安泰祈願ヲナセリ

十一月七日　本日梨本宮守正王殿下ニハ午後二時三十五分延岡驛下リ列車ニテ御通過遊ハサル

仲田市長ハ本日午後零時二十分左記天機奉伺ノ謹電ヲ發ス

記

天皇陛下長途ノ御旅程寔ニ恐懼ノ至リニ堪ヘス海上一路御平安ヲ御祈リ奉リ謹ミテ天機ヲ

伺ヒ奉ル
右ヨロシク御執奏ヲ乞フ

延岡市長　仲田又次郎

御召艦比叡内　湯淺宮内大臣宛

内務省衛生局長岡田文秀氏ハ同省勝俣防疫官ヲ帶同本縣石橋衛生課長ト共ニ來延、城山、旭ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場視察後宮崎市ヘ

内閣資源局企畫部長星埜守一海軍少將ハ同局事務官石本步兵少佐同企畫部第二課長井原砲兵少佐ヲ從ヘテ來延旭ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場視察後當廳ヘ來訪セラル

軍事參議官陸軍大將阿部信行閣下延岡驛下リ通過

御召艦比叡明八日鹿兒島港御入港ノ御豫定ニ付奉迎ノ爲縣會議員甲斐奎太郎、仲田延岡市長、森市會議長、佐竹庶務課長鹿兒島ヘ

十一月八日　内閣賞勳局總裁下條康麿氏來延泊

本市御料品並天覽品納入ノ爲甲斐產業課長都城市ヘ

本縣衛生課八並細菌技手ハ久家防疫監吏ト共ニ來延、本市傳染病發生狀況調査ヲナセリ

十一月九日　旭ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場ニ奉建ノ貴賓館修祓式擧行

下條賞勳局總裁ハ高千穗視察後延岡ニ引返シ大演習地ヘ

行幸御當日御道筋淸掃淨化ノ使命ヲ帶ヒタル延岡土木出張所ニテハ本日御道筋ノ撒水豫行打合セヲ行ヒ萬遺漏ナキナキヲ期セリ

十一月十日　本市ニテハ今山、安賀多、亀井、恒富ノ四神社ニ於テ市幹部、市會議員參拜シ

天皇陛下御平安祈願祭ヲ執行セリ

光榮ノ日ヲ前ニ城山ノ修祓式ハ本日嚴ニ擧行サル

大演習陪觀ノ爲岡田首相一行ハ延岡驛下リ通過都城ヘ

御料品納入ノ爲甲斐產業課長都城市ヘ

十一月十一日　榮光ニ輝ク新橋板田橋ノ竣功式並ニ渡初式ハ内務省下關土木出張所長外來賓多數ヲ迎ヘテ盛大ニ擧行

延岡驛前ニ奉建セル奉迎門ハ本夕ヨリ電飾取付ヲ了セリ

十一月十二日　松田文相延岡驛下リ通過都城ヘ

内務省衛生局防疫課長内野仙一氏來延城山及旭ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場視察後宮崎市ヘ

仲田市長ハ全吏員ヲ會議室ニ參集セシメ一場ノ訓示ヲナス處アリタリ

都城市ニ於ケル觀兵式陪觀並賜饌ノ御召ニ應シ仲田市長、伊東助役、佐竹、甲斐兩主事同地出張

十一月十三日　本日李鍵公殿下ハ午後五時五十五分延岡驛上リ朝香宮殿下ニハ午後八時三十七分同驛上リ御歸東御通過遊ハサル

御紋菓傳達式ハ本日延岡尋常小學校講堂ニテ擧行、拜受者高齡者十三名、傷痍軍人十六名戰死病歿者遺族三十五名ナリ

本日梨本宮殿下ニハ午前九時十六分延岡驛上リ　閑院宮殿下ニハ午後零時三十八分同驛上リニテ御通過御歸東遊ハサレタリ

商工政務次官勝正憲氏本日午後來延泊ペンペルグ絹絲株式會社延岡工場向陽クラブ一泊

十一月十五日　延岡市行幸御當日

畏クモ此日久松侍從ヲ縣立延岡商業學校ニ御差遣アラセラル、本市ニ於テハ晝間旗行列夜ハ提灯行列ノ催シヲナシ奉祝氣分高揚セリ

十一月十六日　延岡市行幸奉送迎ノ大任ヲ無事奉終シタル市長仲田又次郎ハ本縣三島知事ノ召ニ應シ出縣

畏シ延岡市ニ金五百圓、仲田延岡市長ニ羽二重一疋、伊東延岡市助役以下吏員ニ金百五拾圓御下賜ノ旨御沙汰アリ、三島知事ヨリ仲田市長ニ對シ聖旨ノ程ヲ傳達、仲田市長ハ恐懼感激之ヲ拜受シテ退廳セリ

夕刻歸延シタル仲田市長ハ直ニ幹部會ヲ開キテ有難キ右ノ次第ヲ報告スルト共ニ向後執ルヘキ方途ニ付熟議ヲ遂クル處アリタリ

十一月十七日　御還幸奉送ノ爲仲田市長、森市會議長、佐竹庶務課長鹿兒島ヘ

十一月十八日　本日午後六時五十八分市長名ヲ以テ左記謹電ヲ發ス

記

謹ミテ御航海ノ御平安ヲ御祈リ奉ル

右宣敷御執奏ヲ乞フ

御召艦比叡氣附湯淺宮內大臣宛

十一月二十日　畏クモ　天皇陛下ニハ陸軍特別大演習並地方行幸ニ付御慰勞其ノ他ノ有難キ御思召ヲ以テ縣下各方面ニ對シ御下賜金ノ御沙汰アリ、本日午後一時ヨリ本縣廳ニ於テ三島知事ヨリ各代表者ニ對シ謹ミテ傳達式ヲ擧行孰レモ有難ク拜受退下シタルカ縣北關係分左記ノ通リ

記

イ、御警衛關係ノ縣北消防組、青年團、在鄉軍人分會　金一封

ロ、岡富尋常小學校關係職員一同　金一封

ハ、北方村慈眼寺內從四位胤康（管理者同寺住職久峨煥嶺）

ニ、高千穗町芝原、芝原又三郎（管理者高千穗町長）

以上

十一月廿一日　本日　天皇陛下宮城ヘ御還幸アラセラル

此ノ日全縣下各神社一齊ニ奉賽祭執行サル

本市トシテハ午前十時二十分ヨリ嚴肅ト儀禮ニ滿チタル市會開會、光榮ノ議案第九十八號御下賜金拜受ニ關スル件外二件ヲ上程、全員起立裡ニ謹ミテ原案通リ議決セリ

市民一般ハ各神社ニ於テ午前十一時三十分ヨリ奉饗祭參列　皇室ノ彌榮ヲ御願申上ケタリ

更ニ本市ニ於テハ曩ニ依囑シタル奉迎委員衛生警備隊七百餘名ヲ城山公園ニ招シ大園遊會ヲ催シ勞ヲ犒フ處アリタルカ開會ニ先チ公園頂上ニテ遙拜式擧行、伊東助役開會ノ挨拶ニ始マリ樂隊伴奏、國歌齊唱、東方遙拜、仲田市長感激ノ挨拶ト御報告萬歲奉唱アリ、此ノ日絕好ノ秋日和ニ惠マレ爲メニ公園ハ只ナラヌ賑ヒヲ呈シタリ、主賓內藤政道子爵臨席セラレ午後二時本多行幸主務官ヨリ仲田市長宛左記入電（披露朗讀）アリ

電　文

只今天機麗ハシク宮城ニ還御アラセラル、行幸中多大ノ御厚配ニ預リ感謝ノ至リニ堪ヘス

本多行幸主務官

關係各位ニ宜敷御傳ヲ乞フ

右電報ニ對シ仲田市長ハ直ニ左ノ謝電ヲ發セリ

電　文

天機御麗ハシク御還幸アラセラレタル御趣御懇電ヲ拜シ市民擧ツテ欣喜朴舞感激ノ極ナリ行幸事務ニ付貴官ノ寄セラレタル甚大ノ御指導ヲ深謝シ奉ル

延岡市長　仲田又次郎

宮內省行幸主務官本多猶一郎宛

仲田市長ハ本日午後一時左記謹電ヲ發セリ

電　文

謹ミテ御還幸ノ御靜安ヲ御祈リ奉ル

右御執奏ヲ乞フ

延岡市長　仲田又次郎

湯淺宮內大臣宛

十一月廿二日　大演習陪觀、賜饌等ノ光榮ニ浴シタル舊藩主內藤政道子爵ハ本日午後零時三十八分延岡驛上リ列車ニテ歸東ノ途ヘ奉迎準備其他警戒消防ニ盡力シタル幹部並補助員三百七十四名ヲ延岡劇場（市主催）ニ招シ大ニ其勞ヲ犒フ處アリタリ

十一月廿八日　仲田市長、森市會議長、佐竹庶務課長ハ陸軍特別大演習並地方行幸御禮言上ノ爲上京

十一月三十日　滯京中ノ仲田市長ヨリ伊東助役宛左記入電ニ接ス

電　文

御禮言上並ニ　親王殿下御生誕祝賀ノ參賀ヲ無事濟マス安心ヲ乞フ

自十二月六日
至十二月八日　天覽學藝成績品展覽會　於延岡圖書館）

十二月十日　十一月二十八日ヨリ上京中ノ仲田市長、佐竹庶務課長歸延

十二月十二日　大演習並地方行幸奉仕青年ニ對スル御下賜品傳達式並記念品贈呈式ヲ市會々議室ニテ擧行

十二月十三日　仲田市長、佐竹庶務課長ハ過日御禮言上上京ノ報告其他ノ要務ヲ帶ヒテ出縣

十二月廿八日　市會々議室ニ於テ大演習並地方行幸事務ニ付盡力シタル個人或ハ團体ニ對スル本縣三島知事ノ感謝狀傳達式ヲ擧行セリ

記念講演（要旨）

非常時下の同胞に望む

海軍少將　松本匠氏講演

一、

私は只今市長さんから御紹介を頂きました松本で御座います。今回延岡市制三周年記念日に際し意義ある講演會を開かれるに就きまして何か話をせよとの仰を受けましたが、元來が單に海軍生活をしてをりましたもので特に御話しする材料の持合せもないのであります、たつてといふことで御引受けした次第であります。

固よりこれといふ嶄新な御話もありませんし、世界を歩き廻つたといふわけでもないから皆様の御耳に入れる様な何等耳新しいこともないと思ひます。然しながら、私も海軍に職を奉じまして日本の發展には常に心配もいたし、國家を思ふ念は強く働いてゐます。そうしたことから此方面に關する卑見を開陳して御耳を汚し、責を免れんと存ずる次第であります。

一、

扨て、建國以來二千五百九十六年の紀元節の佳辰を迎へますと共に、延岡市の市制實施三周年を迎へましたといふことは御同慶に堪へない次第であります。殊に皇祖發祥の地として畏くも　聖上陛下の行幸を仰ぎましたことは光榮の至りと感激するところであります私は九年振りに歸つて來ましたが、「山河依然、人家開」とでも申しませうかこの市街の活況とその發展を目のあたりに見まして實に驚きました。そしてこの隆昌こそ恰も「躍進日本」の縮圖として實に愉快を覺えてゐるのであります。

この延岡の現在のやうな發展振を大型にした樣な大日本皇國の躍進は新聞紙上で御承知の如く四方八方から注目されてゐるのであります。東の方には太平洋を隔てゝ亞米利加合衆國があり、西の方には一衣帶水の彼方に中華民國、それから北の方には露西亞が世界獨特の政体を以て眼を光らし、南の方に行きますと点々として「イギリス」の植民地領土が控へてをります。かように日本は世界の四大國に取り圍まれてゐるのであります。然し、日本はこれらを相手として身体は小さいが寄らば斬るぞと身構へをしてゐるのであります その有樣は實に日本開闢以來の偉觀壯觀で御座います。しかしながら此の壯絶極る武者振りの間には實に油斷も隙もならざる危險が迫つて居るのであります。即ちこの武者振り勇ましい反面には油斷も隙もあつてはならない狀態が非常時日本の姿と認めずには居れません。それは資源競爭が實戰以上に困難を伴つて來てゐるのであります。日本の人口は年々增加して行きますのに國土は殖えません。幸ひ滿洲國が出來ましたが、氣候風土等の關係上日本の增加する人口を充分に受入れ切らないのであります。年々百萬人を增加する日本は遂に後がつかへることになります。

そこに大きな惱みがあります、そこで外國へ移民しようとすると、「日本人入るべからず。」の立札が立つて居ります、人口は增す、行く先はない、遂に爆發せざるを得なくなります。日本はどうしても增加する人口を收容する新らしい領土をもたねばなりません。

三、

然るに、どの國も、この國も我利々々で自分達の優越感を滿足させんために、「日本人何するものぞ。」といつて排斥するのであります。日本の發展强化を喜ばない列國は、滿洲國の獨立さへも之を認めようとしないのであります。

御承知の如く國際聯盟で四十二對一で滿洲國の獨立を否認しました、列國中たゞ「シヤム」一國が棄權しただけです、日本は潔よく聯盟を脫退しました。あの時のことを松岡全權の直接の話に聞きますと、此の立場に於て尙ほ便々として聯盟に留ることは日本精神がこれを許さなかつたと申してをります。

爾來四ケ年餘、聯盟の態度は少しも變つて居りませぬ。それから次は海軍々縮會議脫退

であります、これはすでに御承知のやうに先般三川大佐のお話もあつたことで、更めて詳しく申しませぬが、不脅威、不侵略、彼我共通、最大限度設定の我が公正妥當なる主張は各國特に英米の理由なき反對を受けたるのみならず、我國は侵略的武器、攻擊的兵器たる戰艦、航空母艦を廢止しようと主張するのでありますが、彼等は贊成しませぬ。この日本の公明正大なる主張に英米が反對するのは、彼等が眞に平和を欲しないからであります。米國では日本と戰爭を始めた場合、同等の兵力では勝算が立たないからであります。英國でもさうです。ことに米國人は劣勢を以て優勢に對するといふ樣なことは決してやらない國民で戰爭でも必勝の算が立たないと致しません、だから日本の主張する對等論などには耳を傾けない。英國では共通最大限を決定せんとする日本案には贊成せず、將來の製艦案を通告し合ふではないか、そして出來るだけ經費を節約しやうではないかと申します、其の眞意は日本の國力では競爭は出來んだらうから、いよ〳〵となると日本も妥協して來ると思つたのです、理窟から言へば自分の方は十隻を持つが、お前の方は六隻以下にせよなどといふことは言へるものではありません、大体自分の方の守ることは考へずにこちらを攻めるに都合のよいことばかり考へてをる、そんな馬鹿々々しい共同軍縮はないのであります、こゝに於いて我が全權は溫顏裏に凱歌を奏しつゝ此の會議を脫退したのであります

かくの如く對等に戰へる我國の立場を今から十年前、二十年前の有樣と比較したならば感慨無量のものがあります。

恰度日露戰爭前に英國の總理大臣は日本に日英同盟を許した、などと傲語してゐるのであります、これを現在日本が英米を向ふに廻して一歩も讓らず、却つて正論を以て彼等を抑へて居る有樣とを考へ合せますとまことに今昔の感に堪へないのであります。然しながら國家が伸びようとするところには必ず風が當ります、往年の獨乙が伸びようとした時にもそうでありました、それで心配なのは英、米が共同して攻めて來はしないかといふことになりますが、今のところではその心配はありません。なるほど日本は英と米とに對立してゐるやうでありますけれども、その英、米も内心に於いて仲がよくないのであります。

四、

米國は成金國で英國は古い國でありますからなか〳〵氣分が合ひません、それに地理的に見ましても同盟には都合が惡いのです、今までに同盟艦隊で勝つたといふためしがありません。多くの場合困難なる方面を避けんと欲し、樂な立場に立たうとします、從つて眞の軍規が保たれないのであります。然しながら我に待つある準備が必要なのであります。

日本は日露戰爭時代から漸く世界列强の仲間入をしましたけれども先進國といはれてゐる國には物質的において非常に遲れてゐました。唯精神的には進んでゐたのであります、私はどうしても文明國になるには精神的でなければならぬと思ひます、日本人は西洋人と

比べまして体力においても智力においても、發明といふことにおいても叶はなかつたのであります、日本人が彼等に對抗できるものは、一つのかたまりとなつてぶつつかつて行くといふことで　これより外はないのであります、そして上萬世一系の　天皇陛下を仰ぎまして一致團結して行くのであります。ところで西洋でも最近の發明には驚いてゐます、日本人は模倣がうまいといつてゐる間にドン〳〵いろんなものを發明して彼等を警戒させ始めました。

それから日本人の強みは体力が熱帶に堪へるといふことであります、ところが西洋人は熱帶には堪へられないのでありますが、日本人は其の血液の中に熱帶にも寒帶にも堪へ得る要素を有つて居ります關係上克く寒暑に堪へ得るのであります、そこで日本は南の方に向つて大いに發展すべきであります。かくの如く見ますと、私は日本の前途は洋々たるを思ひ、その先を見たいと思ひます。

五、

躍進日本は貿易の上にこれを見ることができます、雜貨にしろ、生糸、木綿、人絹にしろ、又、電球、ゴム靴等に至るまで輸出してゐます、これは日本人の手先が器用なので決して外國人が眞似が出來ないのであります。かのペルリが浦賀にやつて來たとき、日本人のチョンマゲを見て日本恐るゝに足らずといひました、ところが或るアメリカ人が日本の美術品を見て、日本は恐るゝに足らぬがこれを造る手が恐ろしいと言つたさうですが、これが躍進日本の今日に現はれたのであります。今一つは日本の偉大なことは家族主義卽ち國家主義であります。これによつて日本の品物は安くて良いものができるのであります、外國では一職工が機械を四台位しか受持つてゐないのに日本の女工は四十台ももちます、それに賃銀が安くて勞働時間が長い、どうしても西洋が勝てないのであります、自轉車でもイギリスで百圓かゝるのを日本では十圓で出來ます、これには日本には家内工業が發達してゐるといふことも大きな力を致してゐます、機械一天張りの世の中に家内工業でやつて行きますから、外國は叶はないのであります。

しかし、日本にもまだ〳〵西洋に及ばないものが澤山あります、時計は「精工社」製がありますが、まだ〳〵西洋程に行きません、飛行機もさうです、それでも大砲や眼鏡はよいものが出來ます、眼鏡の如きは日本は世界一でせう、しかし、それは望遠双眼鏡一つで一萬圓かゝります、そんなのが日本の軍艦には幾つも備へ付けてあります。夜でも遠くが見える位です、軍事費が金を食ふといひますが、以前外國に軍艦をたのんで居た頃を考へますとそう驚くことはありません。

軍艦も今は國産です、金剛は舶來ですが、それから榛名でも、比叡でも日本で出來たものです、舶來の軍艦は黄金で造つた艦であります、國産の軍艦は紙幣で作られます、造幣

局に行つてごらんなさい、拾圓札が五錢で出來ます、軍事費が多い〳〵といひますが驚くことはない十圓札をどし〳〵造ればよい、その金は皆職人に渡る、軍事費が多いといつてそう驚くこともないのです。

六、

ヨーロッパは今や行き詰つてゐるといはれてゐます、それは物質文明の行き詰りであります、私はこれを長者三代の譬の如く、非常な金持になつた家が次第に贅澤になり、放縱になつて沒落して行くのと同じだと思つてゐます。今まで未開國の植民地から野蠻人を搾取して取上げたもので樂な生活をしてゐたのに、それが搾取すべきものがなくなつたから文明が行き詰つてきたのだと思ひます。オランダがそうです、あの小さい國がジャバあたりの砂糖で太つてゐましたが、日本の砂糖が進出したために賣れなくなつて困つてゐますイギリスは根が深いので建て直したやうに思はれますが、フランスは親の財產を平等に分配してもらうのでそれを當にします。こういふ風にヨーロッパは行き詰つてゐます、アメリカはどうです失業者が千二百萬人からあるといひます、日本の三十萬や四十萬と比べものになりません、そこで「光は東方より」といはれるやうになつてきたのです。

日本は建國三千年來外國の血を一つも入れてゐません、三百年の鎖國に依て其の血は淨化されました。物には一利一害がありますが鎖國の利益もあつたのであります、今や三千年來かためられた日本民族が、その力を取り返す時代が來たのであります。

それからヨーロッパの内でもイギリス、フランスといつたやうな滿足國と、ドイツ、イタリーといつたやうな不滿足國とが對立してゐるのであります、日本も不滿足國ですが、この滿足國と不滿足國との爭となり、終局は白人と有色人種との鬪爭であらうといつてゐる者もあり、今のところではヨーロッパは團結しては居ませんが、必ず東洋にもつと手を伸ばす時代が來ると思ひます。

今後は東洋支那へ世界の爭は移つて來るのであります。それで支那の留學生にも「今の間にしつかりしてゐないとおしまひに馬鹿を見るのは君等だぞ、歸つたら蔣介石にもそう言へ」といつて教へてゐるやうな譯です。今頃英國にも日英同盟說を唱へるものがありますが、これを最も希望するのは濠洲であります、それはあちらの羊毛のお得意先が日本だからであります、だから日英が若し戰ふことにでもなつたら濠洲は大打擊を受けるのです

ロンドン會議に於ても英國は根據地の香港をすてゝシンガポールに退却したなどいつてゐます、歷史は地中海時代を過ぎて今や太平洋時代となつて來ました。そこに非常時日本の姿があります。また一方にはロシヤが滿洲と境して動いています、民衆を搾つて大砲、飛行機をドン〳〵造つてゐます。しかしロシヤの目標はむしろドイツだらうと思ひます、ドイツ」は昔から西は行詰つてゐる東へ行けといつてゐます、それでロシヤが日本を敵に廻

はすのは不利であります、日本とドイツに挾まれてゐる譯です。

七、

また、支那はどうかといふとこれはどうにもこうにもなりません、個人主義で自分さへよければ人はどうでもよいといつた調子なのであります。それに兵隊が弱い、世間から見放されたやうな連中しか兵隊にはならないのです、しかし支那も上海、滿洲事變後は國際聯盟も賴むに足りない、英米も信用出來ないと考へるに至つたやうです。支那大衆は滿洲國が次第に秩序を恢復して幸福な生活を始めるのを見てから、支那人自身もそうならんと眺めてゐるやうであります、しかし支那は排日を止めない限りどうしても駄目です、支那をして歐米賴むに足らずといふことを知らするより外仕方がないのであります。

次に、米國の老兵會大會に出席した竹下大將の話を少し紹介致します。老兵會といふのは歐洲大戰その他に出征した兵士たちの集りで、百萬人からあるさうです、日本の在鄕軍人代表として竹下大將が行かれた、その時サンフランシスコに上陸するや米國の新聞記者が日本は軍縮會議を如何にするかと質問したさうです。大將は言下に、山本全權のやつてゐる通りだといつたら新聞記者は其後一言も質問しなかつたさうです。それから大統領は西部諸洲に演說して、米國は日本に對して海軍力の或る餘裕を殘さねばならぬといつた。又、或る迎歡會で一米國人は日本の軍縮會議に於ける態度は堂々としてゐるといつて公明な說を有する人もあつたさうです。また米國は滿洲問題に對してはグズ〳〵いふ必要はないではないか、あの馬賊の巢窟のやうな滿洲を秩序ある安全なる國土としたではないかといつた米國人もあつたといふことであります。

それから、竹下大將の感心されたのは前大統領ルーズベルト夫人の招待の質素なことで一汁一菜であつたことです、日本ならあれこれと五種も六種もならべるのを簡單な一品料理であつたのには米國も流石に油斷がならないと思はれたさうです。卽ち國力を養つてその充實を圖つてゐるのです。かの日本へ來てゐる米國映畫に抱きついたり、吸いついたりするのがありますが、米國では一切そんなものは映畫に出さないさうです、これによつて米國が何を考へてゐるかゞほぼわかる次第です。我々日本人も大いに緊張して質素に勤勉にやらねばならないと思ひます。特に延岡の人々に對して私の希望致しますことは、延岡は舊藩七萬石の城下であります、そこには昔からの美は美しい風俗もあるのであります、そうした昔からの美風は大いに生かしてもらつて、共存共榮をもつて益々延岡を發展さし、繁榮するやうにお願ひする次第であります。

まだお話しすることはありますけれども時間もすでに豫定を過ぎましたので、これで御免を蒙ります、長時間御靜聽下さいまして有難う御座います。

（講演者校閲濟）

記念講演（要旨）

國際情勢と國民の覺悟

陸軍中將　猪狩亮介氏講演

一、

「私が猪狩です、昨日久方ぶりに祖先の地に歸へり、先輩僚友の皆様にお會ひいたし實に感慨無量です。私は十八年前に歸へりまして以來は現役に居りましたために御無沙汰をいたしましたが、今日の記念日（行幸記念式）の盛典に列しまして皆様の團結力の强きまた皇室中心主義のあらはれを見ることのできましたことなど誠に形容のできない喜びに滿ちてをります。

これは市政にたづさはらるゝ諸君の御努力、市民皆様の盡忠報國の誠の現れであると思ひ、私は祖先の地に實に肩身の廣きを思ふ次第であります。本日皆様のためにお話をすることはその材でないとは思ひますが、同鄉の緣故によりあつかましくも參つた次第であります。丁度本年は滿洲事變五周年であります。而して此の鄉土に畏くも

聖上陛下の行幸を二千六百年目に仰ぎ奉りし其の紀念日に當るなど、私は何からお話してよいか其の題材に苦しみますが、要するに現在の時局を大所高所から考へて見ることが必要ではないかと思ひます。」

と前提して、

「先づ、滿洲事變とはどんなものであつたか。我が國の立場はどんなものであるか。ヨーロッパは如何なる情勢の下にあるか。といふことについてお話しを申上ます。」

とて、講演の三大眼目を明にしたる後滿洲問題に入り、

二、

「滿洲事變について世の中の認識はだん〳〵遠ざかりつゝあるが、今日の時局をかりに百年、二百年といふ後に歷史を通じて振返つて見たら、實に贖古の大事件であつたと思ふに違ひない。即ち日本建國以來今日までの歷史を顧みると實に滿鮮問題の解決といふことが三千年來の傳統的の大問題であつた、癌であつた、幾度か我國は此の癌の爲に命を取られようとしたと思ふのであります。」

とて、三韓征伐、元寇の役、豐太閤の朝鮮征伐など引例して日清、日露の役に言及し、

「日本の三大危機は第一が元寇の役、第二が日露戰役、第三が國際聯盟脫退であつた。日露戰爭はこの中に（聽衆）澤山出征された方もあるやうに見受られる、私も行きました

が實に危なかつた。また聯盟脱退は四十二の國を日本一國で蹴飛ばしたのであるといつてよい。こんなことはまだ世界始まつて歴史上見た事のなかつた大冒險であつた、斯くしてこれは卽ち皆樣がやられた、皆樣は其一生に於て己に我國の二大危機を突破した國家の大功臣なのであります。」（中略）

要するに滿洲事變は始めて癌を切開手術して日本を眞の健康体にしたものであると斷じ、引いて對滿政策と内地人口の激增ぶりに論及し、

「日本の人口は毎年八十八萬人殖える、而して年々六萬人の移民が出て行くから、結局八十二萬人だけ内地に殖えることになる。これは丁度和歌山縣の人口と同じだから、日本には毎年一つづゝ和歌山縣位のものが出來ねば足りない。實に出産率は旺盛なものである。然らば此の子孫を安住させる地面があるのか、西郷隆盛は子孫の爲めに美田を買はずと言はれたが、何も田を買ふなとは言つて居られない。だから皆樣も子孫のために田を買ふの心掛は必要でせう。」

とて滿洲對日本のデリケートな關係を述べ來つて、日本の優越せる点を强調し、轉じて兵略上から見ても今日の大日本の形態は實に堂々たるものである、「腰の朱鞘は伊達にはさぬ」と說き、

「喬木には風が當る、偉大となるほど强い風が當る、卽ちこれが非常時なのである。世に非常時は何時終るかといふ人がある、それは喬木が灌木になれば風は當らぬ、非常時は直ぐ終る、灌木にならねば非常時は終らぬ。」

と、巧みに言ひ廻はし、これまで國家の爲めに斃れし人々も今日の日本の姿を見て始めて地下に瞑目し得たであらう、再び殉國の英靈を地下に喚び起してはならぬとシンミリさせて、

「日本と滿洲との關係は共同防衛である、日本が倒るれば滿洲も駄目、滿州が倒るれば日本も危い、どうも矢張り日本は西北の方に（戊亥）建て增しをすると家相がよい。」

とて面白く朝鮮問題、滿洲問題を說いて、

「日本人はどうも滿洲國を屬國視するものがあつて困る。先日謝介石氏（滿洲國大使）に會つていろ〳〵話して見たが、同氏がいふに、一つ日本に希望がある、それは何かといふと、物にたとへて話さうといふ、そこで謝介石氏の言ふに「例へば私の子供が池に落ちて死にさうな時、隣のおぢさんが助けてくれた。それは有難いがそれを何時までも恩にきせられては氣持がよくない。」との話です。これは誠に最もなことです。だから日本は滿洲國のために助けたといふことは暫らく忘れて居てもらひたいと言ふ譯です。」

とて、滿洲事變以來の犧牲者の數字に及び、死者三千九百二十八名、負傷者約七千名なる旨をハツキリ明示して、日本の働きの並大抵ならざりしを說き、引いて滿洲の移民問題に

うつり、

「滿洲國の住民は二十年後に五千萬になるだらう、その約一割を日本民族によりて占めたいといふのが日本の念願である、それで一年に五萬家族（一家五人）を送るのが現在の方針であるらしい。而して日本内地の農村は一戸に對する地積は九反三畝だが、日本移民には十町歩を與へらるゝ地積が準備されてある。」

と說き、アメリカ、カナダ、ドイツなどの農村の比較論をなし、

「滿洲は警備に金がかゝるといふ人があるが、それだけ利益も大きいのである。滿洲に關してはもつと氣を永く持つて進む必要がある。」と結論した。

三、

斯くてヨーロッパの情勢に移り、

「ロシヤは斷じて共產國ではない、富の分配は國民各個の働きの量と質とに應じて酬ひられてゐる資本主義的なものであつて、誰れも彼れも平等ではない、純資本主義と違ふのは資本が悉く國營である。而して其の資本が全く專制的重点主義的に振りまはされる点である。」

とて、ロシヤの現狀は決して一般が想像してゐる樣な共產主義の國ではなく、國家社會主義ともいふ樣な國でしかない。と言及して、國民は全部がサラリーマンであつて、働いただけ與へられて食つてゐる現況を說き、更にロシヤの內情は共產主義を行はんとして行はれなかつた過去の經緯から解剖して共產主義が人生と人道に背く次第を聽衆に徹底せしめ更に轉じてロシヤの兵備については相當穿つた事實と觀察とを披瀝して說明し、次に我が國の國防に論及し、

「一体日本は現在のやうで戰ができるのか、今、日本は全体で十七箇師團、其の內滿洲に三ケ師團、朝鮮に二ケ師團しか持つてゐない。ロシヤは北滿に對してすでに十數個師團二十數萬をもつて來て居る。日本はこれでは駄目です、安心がなりません、來年度の陸軍豫算にどうあらはれるか知りませんが、これは私共がよく當局者に言ふことです。私がその責任者だつたらもつと兵備を多くする。國民も其の心組がなくてはならぬ。軍事費は戰爭をせぬ爲の保險料だ、歐洲大戰の經驗から見ると戰費は我國でも一日に五千萬圓は要するだらう。僅かの保險料（國防費）ですめばなるべく戰爭はせぬ方がよい、戰は實に悲慘です。」

と、自身の實戰談に照し合せて戰爭の如何に悲慘であるかを說いて、國防充實の必要なるを力說し、ついで、北支問題に移つてデリケートな現在の成行きを述べ、更に、ヨーロッパ各國の情勢にうつり、何れの國も自國のことで精一杯で東洋にまで力の及ばざる現狀を述べ、只話せるのはドイツなりとして、ヒツトラーの政策の一端を說いてドイツ國の擧國

一致と防共力と統制力とを語り、更にアメリカの東洋對策を檢討し、現在では殆んど力の入つた對策も、干渉も行ひ得ない情勢にありと斷じ、引いて日本の現狀に論及して、

「今、世界の情勢を按ずる時、日本が今一段の力を致すべきは現在をおいてないのである。」

と熱をこめて高潮し、

「我國に相應した力さへあれば何一つ恐るゝものはない、ロシヤ、アメリカ、支那また然り、殊に支那の如き現在我國との間に談判が行はれてゐるが、直ぐにまとまる譯もなく、まとまらぬでもよいと思ふ、我が國の力さへ充實すれば向ふから纏めて來る。」

（中略）

とて、支那外交の依存主義、ふら〳〵腰である所以を詳細に說いて日本の國情に移り、大いに日本思想界の現狀を痛論して國民に大々的猛省と覺醒とを促すところがあり、言々句々肺肝より出づる熱辯に滿堂の聽衆は深い感激に打たれた。

（講演者校閲濟）

延岡市行幸記念錄　終

昭和十二年五月卅一日印刷
昭和十二年六月二十八日發行

編纂兼發行者　延岡市役所

印刷者　延岡市北町　四倉清

印刷所　延岡市北町　四倉印刷所

732
112